

青森県南で試験公開へ

高精度、衛星画像で判定

水稲の収穫適期予測をウェブ上で示す「あおもり米収穫支援システム『はれナビ』」が本年度、青森県南地方で初めて試験公開される。県内で広く栽培される「まつしぐら」や、暑さに強い「はれわたり」の水田1枚ごとに収穫始めを



青森県南地方で初めて試験公開されるシステム。水田1枚ごとに収穫適期予測を示す（画像は昨年度の津軽地方。青森県産業技術センター提供）

青森産技発 水田色分け 地図化



あおもり米収穫支援システム『はれナビ』のQRコード

他品種でもナビを使えないかーと要望が出る中で、課題となったのは栽培制度の違いだ。青天の露曇は登録だが、その他品種は、どの水田でも育てられる。品種ごとに刈り取り時期が異なる上に、年によって農家が作付け品種を変えることも想定される。

そこで、青天の露曇以外の水田に、はれわたりか、まつしぐらが栽培されているかを判定する。青森県産技術開発センターは、水田の色分けを地図化し、農家が収穫適期を把握できるようにする。指導員向けは2018年度から、19年度からは生産者も対象に運用しており、ブランド力維持に一定の役割を果たしている。

「操作への慣れ課題」 先行の津軽で好感触

「青天の露曇」の作付地域外となる青森県南での試験公開に当たり、青森県産技術開発センターは「指導員、農家がシステムの操作に慣れることも課題だ」と話す。多くの関係者が利用することで、ナビの性能をさらに高めていきたい考えた。

あおもり米収穫支援システム「はれナビ」「まつしぐら」は、「青天ナビ」と同様のレイアウト。先行する津軽地域では、操作性は「良好」「おおむね良好」との回答が占めた。システムにアクセスすると、位置情報の利用や住所検索で水田を探すことがで

青森県産技術開発センターは、青天の露曇の生産指導などを目的に「青天ナビ」を開発。衛星画像の葉や穂の色から成熟度を推測し、色分けしてマップ化する機能などを備える。指導員向けは2018年度から、19年度からは生産者も対象に運用しており、ブランド力維持に一定の役割を果たしている。

と仮定してマップ化。画面上で2品種の切り替えができるようにした。県南地方では、公開に向けて、22、23年に40地点で出穂期と成熟期のデータを収集してきた。24、25年度の試験公開を経て、26年度に本格運用する見込みだ。先に試験公開されていた津軽地域では、実際の適期との推定誤差が、はれわたりは2.7日、まつしぐらは2.5日となり、いずれも高精度だった。

ただ、衛星画像に水田の雑草が写り込むと、適期を誤判定する要因になる。青森県産技術開発センターは「高温の影響で収穫時期も、雑草や病害虫の発生時期も早まっている。カレンダー通りではなく、状況に応じた防除が必要だ」と指摘する。

県南地方での公開開始は8月末から9月上旬の予定。千葉拓実主任研究員は「適期の収穫で等級の安定につながる。実際の登熟具合の確認と合わせて『はれナビ』『まつしぐら』を使ってほしい」と語った。

デーリー東北社新聞社提供（令和6年8月29日掲載）

※この画像は、当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです